

令和6年度 第3回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和6年12月10日（火） 14時00分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 矢野陵子 鈴木貴子 加藤悦子 小西雅子
室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 池谷真也 和田安彦
5. 学校支援コーディネーター（委員外）岡本奈緒（兼CSディレクター）
6. 学 校 中野有哉（校長） 松島歩（教頭） 石島正巳（CS担当教員）
7. 傍聴者 なし
8. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
9. 議長の選出

司会より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

10. 協議事項

生徒会役員との話し合い、振り返り

（1）生徒会より自己紹介、取り組み紹介

（2）中学校生活について

- ・中学生として楽しんで生活できているか
- ・授業にボランティアが入っているがどう感じているか

（3）読書について

- ・どんな本を読んでいるのか、何冊くらい読むのか

（4）地域の行事について

- ・参加したいもの、参加しにくいものはあるか（地域清掃活動、お祭り、運動会等）
- ・地域の特徴は何だと思うか

11. 会議記録

司会の教頭より、委員総数8名のうち6名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）生徒会より自己紹介と取り組み紹介（意見箱・貸出傘・団対抗レク・アルミ缶回収・タブレット活動配信）について資料をもとに説明があり、委員からは以下の質問があった。

小西委員：意見箱で、今年度採用になり全校に取り入れられた内容はあるか？

生徒会：理科室前の男子トイレ内が廊下から見えてしまうという意見があり、のれんが設置された。

矢野委員：大人の世界では、意見箱に残念な意見が入っていたり、貸出傘を返さなかったり壊れたまま平気で返却することがあるが、取り組み報告の中で中学生たちの意見がどれも前向きで自分たちの生活のことをしっかりと考えていることが分かる。このピュアなまま大人になっていって欲しい、見習いたいと感じた。

生徒会：意見箱は、今のところ自分たちの生活の為に使われているのでこのまま継続していきたい。

（2）生徒会より学校生活について楽しいこと、大変なことについて資料をもとに説明があり、委員から以下の質問があった。

小西委員：団対抗レクの内容はどのように決めるのか？また、反応がダイレクトに帰ってくると思うが、へこんだりすることはあるか。

生徒会：内容はアンケートで決定する。正直へこむこともあるが、何故そうなったかを考えて次に生かせるように頑張っている。

小西委員：今年から始めた活動配信を見てみたい。自分たちの代からスタートした活動はいろいろ大変だと思う。頑張っ欲しい。

加藤委員：両立が大変だということはすごく理解できる。自分の中で解決できない時、どこに助けを求め、どのように自分の気持ちを前向きにして解決していくのか、手を差し伸べてくれる人はいるのか？

生徒会：困った内容によるが、生徒会では担当の先生。学校生活では、先生や家族に相談している。

生徒会：先生やクラスの友達。生徒会メンバーは信頼もあり頼りがいがあるので助け合っている。

生徒会：自分一人で背負い過ぎずに仕事を分担し、責任を開放するようにしている。

加藤委員：安心した。あれもこれとも思い込まず、先生や友達、家族に話せるということはとてもすばらしく大切なこと。頑張っほしい。

小西委員：いろいろ大変だと思うが、この経験が必ず社会に出て大人になっても生かされると思う。

山本会長：人柄や受け答え、持っている力は、さすが代表の生徒会役員だと思う。困った時に繋げるロープをしっかり持っている。友達の中にはロープを持っていない子もいるだろう。そういう子を見てどう思うか。

生徒会：自分たちも助けてもらっている分、自分たちがロープになってあげたい。

(3) 生徒会より、読書について一人ずつ回答があり、委員からは以下の質問があった。

鈴木委員：今、本を読まない人が多い。図書室はどのくらい利用されているのか。

生徒会：図書室の利用率が低い現状を解決しようと、図書委員が団対抗の「図書ラリー」を企画・実行している。徐々に、効果は出ている。生徒会としても昨年から「古本市場」を行っている。自分が読み終えた本と紹介カードに見どころを記入し、友達と交換するという仕組み。定期的開催しているが参加者がまだ少なく試行錯誤している。放送や宣伝活動をして増やしていきたい。

鈴木委員：図書室は昼休みのみ開放とのこと。わが子は昼休みに外で遊びたいから借りられず残念だ。

生徒会：図書委員と検討したい。

(4) 地域活動について、生徒会より回答があり委員からは以下の質問があった。

加藤委員：先日、中瀬で「触れ合い交流会」という福祉の活動があった。独居老人と北西高のボランティアがゲームやお話をしたりする内容だ。この取り組みを中学生も一緒に地区のボランティアとして関わったら、とても良い取り組みになるのではないかな。福祉の一環としてお年寄りとの関わりを生徒会が企画すると、また違った一歩が踏み出せるだろう。お年寄りは、学生と関わることをとても楽しみにしている。是非検討してもらいたい。

生徒会：特別支援学校との交流を1年生の総合の授業で行い、福祉について学んだ。その後に実際に行えたら良いなと思う。

山本会長：これは大人の仕事だが、地域活動の中には地域の環境を良くして守っていかうというものもある。みなさんが大人になった時、そういった地域を守る活動もしてもらいたい。今は中学生らしくお祭りなどの行事を楽しんでももらいたい。

校長：意見箱から出た意見がどう動いていくのか、「寒いのでジャージ登校をしたい」という一例で紹介する。まず、生徒会から生活担当の先生に届く、その後、会議を開き先生方の意見を集約し、最終的に校長に報告し決裁をする。このようにプロセスを経て認められるという仕組み。賛否ある中で、子供たちの意見を最大限に尊重しつつ、制服が基本であることを前提に、自分で判断してTP0に合わせて着て来なさいという流れを取っている。

山本会長：大人に言っても無駄だ、ではなく必ず繋がるシステムがある。頑張っていたきたい。今回、初めての試みで膝を交えて息づかいが伝わる距離で話し合いができ感謝している。これから北部中を応援していく良いきっかけになった。

生徒会役員、退室

教育委員会：子供の意見を聴くということはすごく大切。今回、子供たちがどんな感想を持ったのか、もう一度こういった機会を作って欲しいのかを話し合っていくと、深いところが出てくるのではないかな。お互いの感触を知り、たくさんの励ましをもらいながら、見慣れない大人から褒めてもらったり、自分たちの話で笑ってもらったり頷いてもらったりすることは、とても大切だと感じた。なかなか意見をいう機会はあるようでない。今回、生徒会活動の悩みを率直に言っていたが、客観的に委員の皆さんを通して自分を見入る機会にもなり、今後発信の仕方にも変化が出るのではないかな。自分の意見を表明できるということはすごく良いことだと感じた。良い機会を作っていただき暖かく迎え入れて下さり、感謝している。これからも子供たちの意見が叶うようにお手伝いいただけたら嬉しい。

矢野委員：とてもしっかりした、さすが生徒会役員だと感じた。この子たちが中学生の標準ではないのかもしれないが、これだけの若者がいてくれることを嬉しく感じた。

鈴木委員：我が子しか知らないのも、こんなにしっかりしている子がいるのだと切実に感じた。委員会、学級へと他の組織に下して行って、より良い学校にしていってもらえたらと思う。

加藤委員：すごくよかった。基盤になる子がしっかりしていると学校は落ち着くのだと思う。

小西委員：今日の話し合いを子供たちがどう思ったのか聞かせてもらいたい。また、CS に期待することがあれば教えてもらいたい。

室内委員：CD として 3 年前に紹介したボランティアさんが現在も続けていただいていることに感謝している。CS 掲示も継続していることが見て分かるのはとても良いと思う。そちらについても子供たちの意見を聞いてみたい。

会長より、CS あいさつ運動について、自己評価の提出について詳細説明があり、次回の運営協議会スケジュールを確認し、会を閉じた。